

（件名）第21回日本語スピーチコンテスト北海道知事賞等の表彰式について**（1）初めてのオンライン開催**

昨年11月17日、北海道、サハリン州、サハリン国立総合大学の共催により、第21回日本語スピーチコンテストを開催しました。本来であれば昨年5月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期され、11月の開催となりました。当事務所職員は、サハリンに渡航できず、オンラインでの参加となりました。

初めてのオンライン開催にあたり、各関係機関とWEB会議を何度も実施し、様々な疑問について話し合い、解決策を見つけ、開催できるよう直前まで調整を行いました。

その結果、当日は、大きなトラブルもなく、事前の打ち合わせどおりにコンテストを遂行することができました。

（2）スピーチコンテストの参加者

今回は、児童生徒の部に10名、一般・大学生の部に4名が参加しました。例年よりも開催時期が遅くなり、また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、関係者以外の会場への入場規制や、オンラインでの参加も認めるといった通常のコンテストとは雰囲気異なる中、一人ひとりが緊張しながらも素晴らしい発表を行いました。

児童・生徒の部では、「未来のエネルギー」について発表したリュバエワ・マリヤさん（第3ギムナジア、10年生）が優勝し、優秀賞をバトゥーリナ・ダリヤさん（東洋ギムナジア、8年生、テーマ「日本は夢になった国」）、優良賞をロシア生まれロシア育ちの万並玲央さん（第1ギムナジア、6年生、テーマ「おかしな日本の食文化」）が受賞しました。

一般・大学生の部では、「子供と一緒に学ぶ」というテーマで発表したリャギナ・マリーナさん（エクソン・ネフテガス）が優勝し、優秀賞をメジャリコフ・ヤロスラフさん（サハリン国立総合大学4年生、テーマ「大人になること」）、優良賞をアン・ヤン・スンさん（サハリン国立総合大学3年生、テーマ「アニメは日本文化の一つ」）が受賞しました。

（3）北海道知事賞等の表彰式

当事務所職員はオンラインでの参加となったため、コンテスト入賞者に対し、3月になってから個別に表彰式を執り行いました。各入賞者及び学校側と調整し、入賞者や日本語の先生、ご家族を事務所に招待したり、こちらから学校を訪問するなどして実施しました。

また、各入賞者と面談を行う時間を設け、彼らの日本語に対する想いや日本への関心の強さをより深くうかがうことができました。

新年度の日本語スピーチコンテストにつきましても、サハリン州、サハリン国立総合大学等、当地の各関係機関と綿密に連携して取り組んでまいります。

